2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	福祉サービスの組織と経営	担当教員 （実務経験）	大島　康雄 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として社会福祉士事務所に勤務		
対象年次・学期	4年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	公的な福祉サービスを提供するには、提供者側の専門性と継続性が必要になってきます。この科目では、専門的に継続的にサービスが提供できる組織について学びます。				
到達目標	組織形態である法人や組織論、リーダーシップ論を理解することができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・社会福祉士養成講座1　福祉サービスの組織と経営』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	定期試験（2回）、毎回の授業後に配布するリアクションペーパーの内容を加味して総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	20%	
	その他	%	

履修上の留意事項	社会福祉士養成講座のテキストを基にして授業を行い、詳細な説明が必要と思われる部分に関しては適宜解説を行っていく。基本的にプリントを用いた授業を行うが、必要に応じて視聴覚機器を活用していく。また、内容によっては演習形式を取り入れることもある。、今まで学習してきた内容と毛色が異なり理解しづらいかもしれないが、社会福祉士として仕事に携わって行くためには欠かすことの出来ない知識である。また、社会福祉士等の資格試験も念頭において授業を行うので、理解できない部分があれば質問を行って学習を深めて欲しい。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	授業の進め方、福祉サービスの組織・経営を学ぶ意義
	2	オリエンテーション	社会福祉施設の体系、福祉サービスと制度①
	3	オリエンテーション	社会福祉施設の体系、福祉サービスと制度②
	4	オリエンテーション	社会福祉施設における福祉サービスの理念
	5	福祉サービスにかかわる組織や団体	ガバナンスとコンプライアンス
	6	福祉サービスにかかわる組織や団体	法人の種類①　社会福祉法人
	7	福祉サービスにかかわる組織や団体	法人の種類②　特定非営利法人
	8	福祉サービスにかかわる組織や団体	法人の種類③　その他の法人
	9	福祉サービスにかかわる組織や団体	法人の種類④　その他の組織・団体
	10	福祉サービスの組織と経営の基礎理論	戦略
	11	福祉サービスの組織と経営の基礎理論	事業計画
	12	福祉サービスの組織と経営の基礎理論	組織に関する基礎理論
	13	福祉サービスの組織と経営の基礎理論	管理運営の基礎理論
	14	福祉サービスの組織と経営の基礎理論	集団の力学に関する基礎理論、現場見学
	15	福祉サービスの組織と経営の基礎理論	リーダーシップに関する基礎理論

	16	中間のまとめ	第1回から第15回までのまとめ
	17	福祉サービスの管理運営の方法と実際	サービスマネジメント
	18	福祉サービスの管理運営の方法と実際	サービスの質の評価
	19	福祉サービスの管理運営の方法と実際	苦情対応とリスクマネジメント
	20	福祉サービスの管理運営の方法と実際	サービスの提供のあり方の方向性
	21	福祉サービスの管理運営の方法と実際	建物・設備管理
	22	福祉サービスの管理運営の方法と実際	福祉サービスの管理運営の実際
	23	福祉サービス提供組織の経営と実際	人事・労務管理①
	24	福祉サービス提供組織の経営と実際	人事・労務管理②
	25	福祉サービス提供組織の経営と実際	人材育成
	26	福祉サービス提供組織の経営と実際	会計管理と財務管理①
	27	福祉サービス提供組織の経営と実際	会計管理と財務管理②、現場見学
	28	福祉サービス提供組織の経営と実際	情報管理
	29	福祉サービス提供組織の経営と実際	福祉サービス提供組織の経営の実際
	30	全体のまとめ	授業全体を通したまとめ

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	社会理論と社会システム	担当教員 （実務経験）	森下　義亜 有 ☐　無 ☑		
対象年次・学期	4年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	人々は誕生前から死後も、個人として、また集団、地域社会、国、世界の一員として、常に他者に影響を与え、与えられる存在である。本講義の目的は、そうした社会的な仕組みや影響を説明および解明するために必要な社会（科）学の系統的知識を学ぶことである。				
到達目標	社会のさまざまな分野のミクロ～マクロ・レベルにおいて生起する諸現象・問題を、社会理論や関連用語・命題によって複眼的に説明して論じることができる。				
テキスト・ 参考図書等	『社会学用語図鑑』 田中正人ほか　プレジデント社				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	40%	小テストのほか、前・後半のまとめ課題、過去問課題、定期試験によって総合的に評価する。各評価要素の詳細や採点方法は初回に説明する。
	レポート	%	
	小テスト	60%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の 留意事項	講義には複数の参考書に共通する要点を整理した資料を用いる。各履修主題の理解を深めるため、関連するトピックや過去問の紹介と解説も行う。各学生の学習状況を数値化して複数回通知する。質問や理性的・建設的な要望には極力迅速に対応するので、遠慮なく申し出ること。本講義を通じて習得する考え方を、国家試験合格後のキャリアにも活かして欲しい。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	社会学の潮流と社会システム	社会学の成立と展開、社会システム論
	2	日常生活と相互行為	社会関係、社会的行為、社会的役割
	3	社会集団、現代家族の変容と課題	社会集団の種類、家族の変容と課題
	4	法・経済と社会システム	法および経済の特徴と機能
	5	組織と官僚制、社会構成	組織の仕組みと官僚制の特徴、社会構成
	6	生活構造	生活構造の変化、生活の指標化
	7	前半学習の総括	前半のまとめ
	8	ジェンダー	性差の多様性と社会的対応
	9	都市化と地域社会	変容する都市や農村の特徴と課題
	10	人口構造と人口問題	人口変動と社会現象の関係
	11	社会変動と社会運動	近代化の諸側面、社会運動の展開と形態
	12	情報化と国際化	情報化の利点と課題、国際化とグローバル化
	13	社会問題と社会学	社会問題の発生と捉え方
	14	社会政策・計画・福祉、過去問課題	社会福祉政策・計画の諸側面、過去問課題
	15	後半学習内容の総括	後半のまとめ

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	社会調査の基礎	担当教員 （実務経験）	米田　龍大 有 ☐　無 ☑		
対象年次・学期	4年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	社会調査の意義と目的及び方法、統計法の概要、社会調査上の倫理や個人情報保護におよぶ広範囲な分野を説明でき、調査から得られたデータをパソコンを用いて適切に分析し結果を提示できるようになることを目的としている。				
到達目標	①社会調査の目的と意義、史的展開、基礎的な社会調査手法について説明できる。②社会調査上の倫理、個人情報の保護、統計法について説明できる。 ③調査研究報告に対し批判的に吟味できる。 ④パソコンを用いて、調査データを適切に分析し結果を提示できる。				
テキスト・ 参考図書等	テキスト:「最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座5　社会福祉調査の基礎」（中央法規） 参考図書:「国民衛生の動向2022年版」（厚生統計協会）、「社会調査の基礎−社会調査士A・B・C・D科目対応」（株式会社　弘文堂）				

評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	授業への参加態度、授業振り返りシート20%と最終テスト80%で評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	20%	

履修上の 留意事項	主に配布資料と教科書を用いて講義を展開する。講義の一部では演習も取り入れる予定であるため、基礎的なパソコンの操作については自主学習が必要になる。教科書以外の参考文献は講義内で適宜伝える。社会調査は根拠に基づくソーシャルワーク実践に必須の科学、技術である。基礎的な知識と技術を獲得できるよう、楽しみつつ集中して取り組んでいただきたい。

履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	ガイダンス、社会調査概論（1）	本講義の目的、講義の全体像について確認する。 調査法からの反論；批判的に吟味できる。
	2	社会調査概論（2）；社会調査の史的発展、統計法	社会調査の歴史的発展、代表的な社会調査について説明できる。 統計法について説明できる。
	3	調査法概論（3）；統計法と統計調査の種別	統計調査の概要；公的統計、基幹統計、一般統計調査　他について説明できる。
	4	調査法概論（4）；適正な調査の条件	バイアス、交絡、統計的検定（危険率）について説明できる。
	5	調査法概論（5）；疫学研究法の理解	記述疫学；スノーの「コレラの感染拡大の阻止」 他について説明できる。 分析疫学；ドル＆ヒルの「喫煙の肺がん発症影響」 他について説明できる。
	6	調査の技法（1）；研究デザイン	調査デザイン、操作的定義、データ収集方法について説明できる。
	7	調査の技法（2）；調査票の作成（演習形式）	調査票作成時の留意点、調査項目の設定、質問文作成の注意点、変数の種類について説明できる。
	8	調査の技法（3）；調査データの取り扱い（演習形式）	調査データの取り扱いに関する留意点、量的解析に向けたデータの取り扱い手法について説明できる。
	9	記述統計；適切な図表の作成（演習形式）	図表の特性について理解し、適切な図表を作成できる。
	10	推測統計（1）；相関分析、単回帰分析（演習形式）	相関分析、単回帰分析について説明できる。
	11	推測統計（2）；平均値の検定、χ（カイ）二乗検定（演習形式）	t検定、χ（カイ）二乗検定について説明できる。
	12	推測統計（3）；多変量解析（演習形式）	重回帰分析、ロジスティック回帰分析について説明できる。
	13	質的調査の方法（1）	質的調査の概要、調査法の特徴について説明できる。
	14	質的調査の方法（2）	質的調査の企画、分析、実施手法について説明できる。
	15	総括；根拠に基づくソーシャルワーク実践に向けて	社会調査の有効性と限界について説明できる。 ソーシャルワークにおける社会調査の活用事例について説明できる。

2022年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）		担当教員 （実務経験）	有 □　無 □		
対象年次・学期		必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数（1回90分）		時間数	
授業目的					
到達目標					
テキスト・ 参考図書等					

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の 留意事項	

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

	16		
	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		

授業科目 （科目ID）		担当教員 （実務経験）	有 ☑ 無 ☐
対象年次・学期		担当教員 （実務経験）	有 ☑ 無 ☐
授業形態			
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	福祉行財政と福祉計画	担当教員 （実務経験）	安田　昌彰 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として社会福祉士事務所を運営		
対象年次・学期	4年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	福祉の行政・財政の実施体制（国と地方自治体との関係、国・都道府県・市町村の役割、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）とその実際を理解するとともに、福祉計画の種類と国・都道府県・市町村の位置づけや内容、住民参加のあり方や計画策定義務の有無などについて学びます。				
到達目標	福祉行政の組織、国と地方自治体の関係、財源の現状について説明でき、各福祉計画について根拠法と関連付けて述べることができる。				
テキスト・ 参考図書等	『新・社会福祉士養成講座10　第5版　福祉行財政と福祉計画』 社会福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	定期試験、授業中の発言内容や質疑など総合的に判断して評価します。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	20%	

履修上の 留意事項	社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画は学習内容が多岐にわたっております。特に最新の福祉行財政は政治経済状況により大きく変化しており、その内容は国家試験の問題に反映されておりますので、テレビや新聞等でその動向をしっかりとチェックしておきましょう。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	福祉行財政と福祉計画	福祉と制度
	2	福祉行財政と福祉計画	福祉の法制度の展開
	3	福祉行財政と福祉計画、福祉行政	福祉計画の概要、行政の骨格　社会福祉と法制度
	4	福祉行政	福祉行政の組織　社会福祉基礎構造
	5	福祉財政	財政と社会福祉　一般会計予算と社会保障関係費の動向
	6	福祉財政	地方自治体の財政と民生費の動向　民間社会福祉事業の財源、福祉サービスの利用と費用負担
	7	福祉行政の組織・団体と専門職の役割	社会福祉基礎構造改革　相談過程　相談体制
	8	福祉行政の組織・団体と専門職の役割	専門諸機関　地域の相談システム　専門職
	9	福祉計画の目的と意義	福祉計画の目的・意義とは　福祉援助の現場から福祉計画へ、計画のリサイクルと福祉援助の現場
	10	福祉計画の理論と技法	福祉計画の基本的視点　福祉計画の過程と留意点
	11	福祉計画の理論と技法	福祉計画におけるニーズ把握　評価　住民参加
	12	福祉計画の実際	福祉計画の事例研究の視点　老人福祉計画・介護保険事業計画
	13	福祉計画の実際	障害者計画・障害福祉計画　次世代育成支援行動計画
	14	福祉計画の実際	地域福祉計画
	15	全体のまとめ	まとめと振り返り

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	就労支援サービス	担当教員 （実務経験）	橋本　達志 有 ☑　無 ☐　精神保健福祉士として就労継続支援事業所に勤務		
対象年次・学期	4年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	8回	時間数	15時間
授業目的	「働く」ことの意義と現代の労働環境、制度を知る。そのうえで、障碍者、低所得者の労働環境を理解し、就労の支援の在り方を学ぶ。				
到達目標	就労支援に必要な制度について知る。				
テキスト・ 参考図書等	『新・社会福祉士養成講座18　第4版　就労支援サービス』 社会福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	試験、提出物等、総合的に評価します。講義内に行うグループディスカッションや積極的な発言、質問なども評価します
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	20%	
	その他	20%	

履修上の 留意事項	毎回プリントを配布します。配布されたプリントは各自保管し、指示がある場合には、見られるよう授業がある時には持参してください。板書されることをただ写すのではなく、メモを取るなど積極的に授業に臨んでください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	雇用・就労の動向と労働施策の概要	オリエンテーション、働くことの意味と社会福祉士の役割、雇用・就労の動向と施策①
	2	就労支援制度の概要	雇用・就労の動向と施策②
	3	就労支援に係る組織、団体の役割と実際①	障害者と就労支援①
	4	就労支援に係る組織、団体の役割と実際②	障害者と就労支援②
	5	就労支援に係る組織、団体の役割と実際③	低所得者と就労支援
	6	就労支援に係る専門職の役割と実際①	障害福祉施策における専門職の役割、障害者雇用施策における専門職の役割
	7	就労支援に係る専門職の役割と実際②	低所得者等の就労支援における専門職の役割、その他の就労支援の従事者
	8	就労支援分野との連携と実際	連携の過程・意義・実際、様々な働き方の支援
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	更生保護制度	担当教員 （実務経験）	中村　さやか 有 ☐　無 ☑		
対象年次・学期	4年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	8回	時間数	15時間
授業目的	制度や仕組みの狭間におかれた社会的弱者と犯罪との関連性、犯罪者の実態やその社会的背景を明らかにしたうえで、犯罪者が地域社会で排除されず生きていくために必要な福祉的支援や連携について理解することをめざす。				
到達目標	制度の意義や課題を述べることができる。 各制度の目的や流れ、関わる人々や機関について説明することができる。				
テキスト・ 参考図書等	『新　社会福祉士養成講座20　第4版　更生保護制度』 社会福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	試験結果や授業中の発言内容等を総合的に判断して成績を評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	20%	

履修上の 留意事項	犯罪を犯したことは許されることではありません。しかし誰もが犯罪者になる可能性があります。たとえ犯罪者であっても1人の人間としてどう尊重されるべきか、常に問う姿勢で学習に臨むことが重要です。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	我が国の犯罪情勢・犯罪者処遇の現状	非行や犯罪臨床の概要、犯罪の現状、更生保護法、更生保護の歴史的展開、刑事司法における更生保護の位置づけ
	2	更生保護制度の概要（1）目的・位置付け・調整	仮釈放等の種類や手続き、保護観察法の目的と方法、保護観察の対象者の種類とその特徴、保護観察対象者の終了後の状況、収容中の者に対する生活環境の調整、保護観察付執行猶予者の裁判確定前の生活環境の調整
	3	更生保護制度の概要（2）保護観察以外の施策等	更生緊急保護の意義・対象者や期間。更生緊急保護の原則・内容・手続き、犯罪被害者等施策、恩赦、犯罪予防活動
	4	更生保護制度の担い手	保護観察官の役割、保護司の身分・職務・現状等、更生保護施設、民間協力者の活動内容等
	5	関係機関・団体との連携	家庭裁判所、地方裁判所、検察所、矯正施設、公共職業安定所、福祉事務所、その他
	6	医療観察制度の概要	医療観察法の内容、社会復帰調整官の役割、生活環境調査、地域社会における処遇
	7	更生保護制度の実際と今後の展望	保護観察官の業務の実際、社会復帰調整官の業務の実際、事例からみえてくる現状と課題
	8	更生保護の今後の展望と全体のまとめ	国民や地域社会の理解、実効性の高い官民の協働、保護観察の充実強化
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目（科目ID）	精神科ソーシャルワーク論Ⅳ	担当教員（実務経験）	遠藤　克彦 有 ☑　無 ☐　精神保健福祉士として病院に勤務		
対象年次・学期	4年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	精神保健福祉援助技術各論では、精神医療の特性と精神障害者を対象とした支援の基本的考え方について理解をすることに焦点をあて、地域生活を基盤とした包括的な支援の意義と展開、必要な援助技術について学びます。				
到達目標	精神保健福祉援助技術の理論と技術を体系的に習得する。				
テキスト・参考図書等	『新・精神保健福祉士養成講座5　第2版　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』 日本精神保健福祉士養成校協会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	100%	ペーパーテストにて評価します。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の留意事項	講義を中心とするが、プリント、視聴覚教材を取り入れ、精神障害者に対する社会福祉サービスと援助の体系、共同課題等を総合的に理解できるような授業とする。精神保健援助技術の基本となる科目であり、実践現場で生きてくるのでしっかりと学習してほしい。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方	地域生活支援事業と訪問援助
	2	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方	家族会およびセルフヘルプグループ
	3	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方	精神保健福祉ボランティアの育成と活用
	4	精神障害者のケアマネジメント	ケアマネジメントの原則
	5	精神障害者のケアマネジメント	ケアマネジメントの意義と方法
	6	精神障害者のケアマネジメント	ケアマネジメントの展開過程
	7	精神障害者のケアマネジメント	チームケアとチームワーク
	8	精神障害者のケアマネジメント	事例による精神障害者ケアマネジメントの検討
	9	地域を基盤とした支援とネットワーキング	地域を基盤にした支援の概念と基本的性格
	10	地域を基盤とした支援とネットワーキング	地域アセスメントとBSCおよびSWOT分析
	11	地域を基盤とした支援とネットワーキング	地域を基盤にした支援の具体的展開
	12	地域を基盤とした支援とネットワーキング	事例による地域を基盤にした支援の検討
	13	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開	包括的な支援の意義と展開
	14	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開	事例による地域生活を支援する包括的な取り組みの検討
	15	全体のまとめ	まとめ

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	精神保健福祉論	担当教員 （実務経験）	定平　憲之 有 ☑　無 ☐　精神保健福祉士として病院に勤務		
対象年次・学期	4年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	精神障害者の生活の実際を理解したうえで、地域で生活する精神障害者に対しての居住支援、就労支援の実際について理解する。 また、行政における相談援助について理解する。				
到達目標	障害者総合支援法の内容及び行政の役割について説明することができる。				
テキスト・ 参考図書等	『新・精神保健福祉士養成講座7　精神障害者の生活支援システム』 日本精神保健福祉士養成校協会　中央法規出版 福祉小六法				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	90%	定期試験、小テストにて評価する。
	レポート	%	
	小テスト	10%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の 留意事項	必要に応じてプリント、視聴覚教材を活用します。精神保健福祉士にとって中核となる科目です。積極的かつ十分な学習を心がけてください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	精神障害者の概念	精神保健福祉法による「精神障害」の定義規定
	2	精神障害者の生活の実際	精神障害者の現状
	3	精神障害者の生活の実際	精神障害者の家族の現状
	4	精神障害者の居住支援	居住支援制度の歴史的展開
	5	精神障害者の居住支援	居住支援の実際と精神保健福祉士の役割
	6	精神障害者の居住支援	確認小テスト
	7	精神障害者の雇用・就業支援	雇用・就業支援制度の概要
	8	精神障害者の雇用・就業支援	雇用・就業支援制度の概要
	9	精神障害者の雇用・就業支援	雇用・就業にかかわる専門職
	10	精神障害者の雇用・就業支援	確認小テスト
	11	行政における相談援助	市町村における相談援助システム
	12	行政における相談援助	都道府県における相談援助システム
	13	行政における相談援助	行政における精神保健福祉士の役割と機能
	14	行政における相談援助	確認小テスト
	15	まとめ	今までの振り返り

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	精神保健福祉援助演習Ⅱ	担当教員 （実務経験）	一戸　真由美 有 ☑　無 ☐　精神保健福祉士として教育委員会等に勤務		
対象年次・学期	4年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	精神保健福祉援助演習Ⅰで学んだ学習内容を基本とし、精神障がい者の生活や生活上の困難についての理解を深め、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。				
到達目標	精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、取り巻く状況や環境を含めて理解する力（アセスメント）を養うこと、また「当事者主体・当事者を中心としたチームアプローチの考え方」を主軸に置き、精神保健福祉士として当事者に届く相談援助の方法ついて理解し、可視化・言語化できる能力の習得を目指す。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・精神保健福祉士養成講座7　ソーシャルワーク演習（精神専門）』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版 『新・精神保健福祉士用紙絵講座5　精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ　第2版』 日本精神保健福祉士養成校協会　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	グループディスカッション・ロールプレイの参加姿勢、発言内容、レポートの課題の提出状況などにより評価する。
	レポート	20%	
	小テスト	%	
	提出物	30%	
	その他	50%	

履修上の 留意事項	本演習は参加者全員で事例の世界を共有し、援助者としての態度・行動を体験的に学習する時間となります。グループディスカッション・ロールプレイを用いた学習場面が多くなりますので、積極的に参加して下さい。なお、学習課題や理解の進捗状況により、予定が前後する可能性があります。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	演習の目的と意義、演習の進め方
	2	課題別相談援助事例⑤	就労支援事例の検討（ストレングスモデル、個別支援計画、チームアプローチ・社会資源開発）
	3	〃	〃
	4	〃	〃
	5	課題別相談援助事例⑥	家族支援事例の検討(個別・集団による支援、心理教育）
	6	〃	〃
	7	課題別相談援助事例⑦	長期入院者への地域移行支援事例の検討（アセスメント・プランニング）
	8	〃	〃
	9	〃	〃
	10	課題別相談援助事例⑧	精神科リハビリテーション場面における個別・集団支援事例の検討
	11	〃	〃
	12	課題別相談援助事例⑨	訪問型支援、ピアサポート事例の検討（アウトリーチ）
	13	〃	〃
	14	課題別相談援助事例⑩	社会的排除・貧困・低所得などの課題をもつ事例の検討
	15	全体のまとめ	

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	担当教員 （実務経験）	田中　航 有 ☑　無 ☐　精神保健福祉士として就労継続支援事業所に勤務		
対象年次・学期	4年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	精神保健福祉援助実習指導Ⅰを踏まえて、精神保健福祉士として実践力の向上を図ることを目的とする。				
到達目標	①精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態やニーズを把握する。②実践的な技術等を体得するとともに、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。③具体的な体験や援助活動を専門的知識及び技術として概念化し理論化し、体系立てていくことができる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新　精神保健福祉士養成講座8　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習』 一般財団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　中央法規出版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	30%	グループディスカッションでの参加態度、担当教員からの問いかけに対する応答、課題・実習報告書の取り組み姿勢や内容、事前学習レポートの内容、実習報告会でのプレゼンテーションを総合的に評価する。左記試験は授業内における実習前知識試験のことを指す。
	レポート	30%	
	小テスト	%	
	提出物	30%	
	その他	10%	

履修上の 留意事項	これまでの実習を振り返り、自らの実習の目的、課題を再確認して臨んでください。また、現場で多くの成果を得るためには、事前準備が必要です。事前準備をしっかり行い実習に臨んでください。さらに、実習後は自らの体験を言語化し、振り返ることが重要です。実習が終了したら終わりではなく、自らの今後の課題を設定し、精神保健福祉士としての準備につなげてください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	実習の目的と意義
	2	実習先種別と対象の理解	地域で生活する精神障害者
	3	実習先種別と対象の理解	地域事業所の役割と機能
	4	実習へのイメージ形成と課題の明確化	精神保健福祉援助実習における課題の整理
	5	実習の準備と計画	実習計画書の作成、事前訪問に向けての準備
	6	実習の準備と計画	場面を設定してのロールプレイ
	7	特別講義	当事者から学ぶ
	8	特別講義	当事者から学ぶ
	9	実習の記録の書き方	実習日誌の書き方
	10	実習契約について	必要書類の作成と保管、職業倫理の遵守と法的責任
	11	実習前知識試験	知識確認
	12	事後学習	実習における体験の振り返り、課題の整理
	13	事後学習	実習報告書作成
	14	事後学習	実習報告会資料作成
	15	実習報告会	全体総括

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	精神保健福祉援助実習Ⅱ	担当教員 （実務経験）	田中　航 有 ☑　無 ☐　精神保健福祉士として就労継続支援事業所に勤務		
対象年次・学期	4年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	実習	授業回数（1回90分）		時間数	105時間
授業目的	①実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術を体得する。②実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。③精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。④総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方およびその具体的内容を実践的に理解する。				
到達目標	障害福祉サービス事業所での配属実習を通して、精神保健福祉領域のソーシャルワーカーとして必要な知識・援助技術・価値態度等を習得し、それらを説明できる。				
テキスト・ 参考図書等					

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	・実習先の評価　35%、訪問指導担当教員・学内教員などの教員による評価　65%にて行う ・実習先の評価は、実習評価表の総合評価が対象となる ・教員による評価は、訪問指導時の準備・態度・報告内容、実習日誌、実習報告書等が対象となる ・詳細は授業にて説明する
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	100%	

履修上の留意事項	実習に臨むためには、良好な健康状態である必要がありますので、各自体調を自己管理し、不調の際はすみやかに病院を受診してください。その結果はもちろんですが、実習状況等に関しても自己判断せずに、教員や実習指導者に報告・連絡・相談を密に行い、協働して進めていくことを忘れずに取り組んでください。また、利用者や実習先の協力に感謝し、謙虚に、貪欲に、主体性をもって実習に臨んでください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
		対象者の理解及び、障害福祉サービス事業所の理解	利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーション、円滑な人間関係の形成
			利用者理解とそのニーズの把握
			実習先施設の経営や管理運営の実際
		ソーシャルワークの理解	援助計画（インテーク、アセスメント、プランニング）への理解
			利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係形成
			利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護（エンパワーメントを含む）及び支援とその評価
			精神保健福祉分野に係る多職種連携、チームアプローチの理解
			地域社会におけるアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用に対する理解

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	経済学	担当教員 （実務経験）	李　宏暉 有 ☐　無 ☑		
対象年次・学期	4年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	ミクロ・マクロ経済学の基礎知識の習得				
到達目標	経済学に関する基本的知識を身につけ、社会でおこる現象を経済学の視点から説明する事ができる。				
テキスト・ 参考図書等	必要に応じて資料を配布する。				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50%	期末テスト、レポート、授業中の発言などを総合して評価する。
	レポート	40%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	10%	

履修上の留意事項	

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	経済学の考え方	経済学とは何か
	2	ミクロ経済学の基礎	需要と供給
	3	ミクロ経済学の基礎	価格と市場
	4	ミクロ経済学の基礎	消費者理論
	5	ミクロ経済学の基礎	生産者理論
	6	ミクロ経済学の基礎	完全競争市場での均衡
	7	ミクロ経済学の基礎	競争と独占
	8	ミクロ経済学と労働経済	労働経済
	9	マクロ経済学の基礎	経済成長
	10	マクロ経済学の基礎	インフレ・デフレ
	11	マクロ経済学の基礎	消費と投資
	12	マクロ経済学の基礎	金融市場
	13	マクロ経済学の基礎と労働経済	労働市場
	14	ミクロ・マクロ経済学	全体復習
	15	全体のまとめ	まとめ

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目（科目ID）	福祉事務所運営論	担当教員（実務経験）	安田　昌彰 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として社会福祉士事務所を運営		
対象年次・学期	4年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	住民に最も近い社会福祉の総合的行政センターである福祉事務所について、その法的な性格や歴史、組織体制や機能、各専門職種の業務内容、関係機関等との連携などについて学びます。				
到達目標	福祉行政の目的と使命、それを実践するための福祉事務所の組織体制と機能について説明できる。				
テキスト・参考図書等	『福祉事務所運営論　第4版』 宇山勝儀・船水浩行編 ミネルヴァ書房				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	80%	定期試験、授業中の発言内容や質疑など総合的に判断して評価します。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	20%	

履修上の留意事項	福祉事務所は住民にとっていちばん身近な福祉の窓口です。皆さんが住んでいる地域の福祉事務所を、実際に見学してくることは一層理解を深めることになります。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	現代社会と福祉事務所の運営	・環境の変化　・福祉事務所の運営
	2	福祉事務所の成立と歴史的展開	・社会福祉主事　・生活保護法　・社会福祉事業法
	3	福祉事務所の成立と歴史的展開	・福祉事務所制度の展開
	4	福祉事務所の業務と組織	・組織　・業務　・運営方針　・今日的課題
	5	福祉事務所と関係社会資源との連携	・連携の意義と効果　・福祉行政機関　・保健・医療機関　・施設　・地域社会資源
	6	福祉事務所の運営と民生委員の役割	・民生委員の位置づけ　・活動の実際
	7	福祉事務所の専門職員とその役割	・査察指導員　・専門職員の業務　・現任訓練
	8	社会福祉主事の専門性と倫理	・専門性　・任用資格　・援助技術の原理　・業務と倫理
	9	社会福祉主事の業務と社会福祉援助技術の展開	・基本要素　・体系と方法　・展開過程
	10	社会福祉主事の業務と社会福祉援助技術の展開	・バイスティックの7原則　・ケアマネジメント
	11	福祉事務所の業務に関する法制度	生活保護制度
	12	福祉事務所の業務に関する法制度	生活保護以外の制度
	13	福祉事務所における自立支援の事例	・基本的コンセプト　・最重要視点
	14	福祉事務所をめぐる最近の政策動向等と課題	最近の政策動向等　・諸課題
	15	全体のまとめ	・まとめと振り返り

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	国家試験対策Ⅱ	担当教員 （実務経験）	高泉　一生 有 ☑　無 ☐　社会福祉士として病院に勤務		
対象年次・学期	4年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	8単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	60回	時間数	120時間
授業目的	社会福祉士国家試験・精神保健福祉士国家試験の共通科目および社会福祉士専門科目の学習を通して、各科目のポイントをおさえ、国家試験合格をめざす。また、内容を落し込み、自己分析しながら学習に臨む姿勢を涵養する。				
到達目標	①自己分析を行いながら計画的に学習を遂行できる。 ②各模擬試験における自身の目標点に到達することができる。				
テキスト・ 参考図書等	適宜、資料を配布する				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	40%	・模擬試験結果、科目別基礎知識の習熟度など総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	60%	

履修上の 留意事項	知識の習得のための講義と問題演習を中心に展開する。必要に応じて対策プリントを配布する。国家資格の取得は専門職の前提です。自らの学習状況、習得状況を把握し、計画的に受験勉強に取り組んでください。また、「やりっぱなし」では力がつきませんので、必ず自宅学習で復習し、1つ1つ確実な知識を身につけてください。

回数	履修主題	履修内容
1	オリエンテーション（高泉、田中、吉岡）	本科目のスケジュールおよび評価
2	学習計画の立案（高泉、田中、吉岡）	自己分析と学習計画立案
3	科目別基礎知識の習得（吉岡）	社会保障
4	科目別基礎知識の習得（吉岡）	社会保障
5	科目別基礎知識の習得（小林）	高齢者に対する支援と介護保険制度
6	科目別基礎知識の習得（小林）	高齢者に対する支援と介護保険制度
7	模擬試験の実施（高泉・田中・吉岡）	社会福祉士学内模擬試験（共通科目）
8	模擬試験の実施（高泉・田中・吉岡）	社会福祉士学内模擬試験（共通科目）
9	模擬試験の実施（高泉・田中・吉岡）	社会福祉士学内模擬試験（社会専門科目）
10	模擬試験の実施（高泉・田中・吉岡）	社会福祉士学内模擬試験（社会専門科目）
11	科目別基礎知識の習得（高泉）	保健医療サービス
12	科目別基礎知識の習得（高泉）	保健医療サービス
13	科目別基礎知識の習得（小林）	低所得者に対する支援と生活保護制度
14	科目別基礎知識の習得（小林）	低所得者に対する支援と生活保護制度
15	科目別基礎知識の習得（高泉）	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度

履修主題・履修内容	16	科目別基礎知識の習得(高泉)	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度
	17	科目別基礎知識の習得(吉岡)	地域福祉の理論と方法
	18	科目別基礎知識の習得(吉岡)	地域福祉の理論と方法
	19	科目別基礎知識の習得(田中)	障害者に対する支援と障害者自立支援制度
	20	科目別基礎知識の習得(田中)	障害者に対する支援と障害者自立支援制度
	21	科目別基礎知識の習得(吉岡)	福祉行財政と福祉計画
	22	科目別基礎知識の習得(吉岡)	福祉行財政と福祉計画
	23	科目別基礎知識の習得(高泉)	社会調査の基礎
	24	科目別基礎知識の習得(高泉)	社会調査の基礎
	25	科目別基礎知識の習得(田中)	就労支援サービス
	26	科目別基礎知識の習得(小林)	更生保護
	27	科目別基礎知識の習得(吉岡)	相談援助の基盤と専門職
	28	科目別基礎知識の習得(吉岡)	相談援助の基盤と専門職
	29	科目別基礎知識の習得(高泉)	相談援助の理論と方法
	30	科目別基礎知識の習得(高泉)	相談援助の理論と方法
	31	科目別基礎知識の習得(高泉)	社会理論と社会システム
	32	科目別基礎知識の習得(高泉)	社会理論と社会システム
	33	科目別基礎知識の習得(鈴木)	権利擁護と成年後見制度
	34	科目別基礎知識の習得(鈴木)	権利擁護と成年後見制度
	35	科目別基礎知識の習得(泉)	人体の構造と機能および疾病
	36	科目別基礎知識の習得(泉)	人体の構造と機能および疾病
	37	模擬試験の実施(高泉・田中・吉岡)	社会福祉士学内模擬試験(共通科目)
	38	模擬試験の実施(高泉・田中・吉岡)	社会福祉士学内模擬試験(共通科目)
	39	模擬試験の実施(高泉・田中・吉岡)	社会福祉士学内模擬試験(社会専門科目)
	40	模擬試験の実施(高泉・田中・吉岡)	社会福祉士学内模擬試験(社会専門科目)
	41	科目別基礎知識の習得(高田)	現代社会と福祉
	42	科目別基礎知識の習得(高田)	現代社会と福祉
	43	模擬試験の実施(高泉・田中・吉岡)	全国模擬試験(社会専門科目)
	44	模擬試験の実施(高泉・田中・吉岡)	全国模擬試験(社会専門科目)
	45	科目別基礎知識の習得(田中)	心理学理論と心理的支援
	46	科目別基礎知識の習得(田中)	心理学理論と心理的支援
	47	科目別基礎知識の習得(吉岡)	福祉サービスの組織と経営

	48	科目別基礎知識の習得（吉岡）	福祉サービスの組織と経営
	49	学習計画の見直し・立案（高泉、田中、吉岡）	学習計画の振り返り、今後の学習計画の立案
	50	苦手科目の克服と知識の定着（高泉、田中、吉岡）	苦手科目の対策
	51	苦手科目の克服と知識の定着（高泉、田中、吉岡）	苦手科目の対策
	52	苦手科目の克服と知識の定着（高泉、田中、吉岡）	苦手科目の対策
	53	模擬試験の実施（高泉・田中・吉岡）	全国模擬試験（共通科目）
	54	模擬試験の実施（高泉・田中・吉岡）	全国模擬試験（共通科目）
	55	模擬試験の実施（高泉・田中・吉岡）	全国模擬試験（社会専門科目）
	56	模擬試験の実施（高泉・田中・吉岡）	全国模擬試験（社会専門科目）
	57	苦手科目の克服と知識の定着（高泉、田中、吉岡）	苦手科目の対策
	58	苦手科目の克服と知識の定着（高泉、田中、吉岡）	苦手科目の対策
	59	苦手科目の克服と知識の定着（高泉、田中、吉岡）	苦手科目の対策
	60	全体のまとめ（高泉・田中・吉岡）	全体のまとめ

授業科目 （科目ID）	国家試験対策Ⅱ	担当教員	田中　航
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 精神保健福祉士として就労継続支援事業所に勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員	吉岡　秀典
授業形態	講義	（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 社会福祉士として病院に勤務
		担当教員	泉　共基
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 看護師として病院に勤務
		担当教員	小林　智子
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 社会福祉士として成年後見に従事
		担当教員	鈴木　道代
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☑
		担当教員	高田　友子
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 社会福祉士として社会福祉協議会に勤務
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	国家試験対策Ⅲ	担当教員 （実務経験）	田中　航 有 ☑　無 ☐　精神保健福祉士として就労継続支援事業所に勤務		
対象年次・学期	4年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	6単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	45回	時間数	90時間
授業目的	精神保健福祉士国家試験合格に向け、精神保健福祉士専門科目の模擬問題、過去問題等を活用した問題演習並びに模擬試験を実施する。				
到達目標	①模擬試験において、6割以上の得点率を獲得すること ②精神保健福祉士国家試験に合格すること				
テキスト・ 参考図書等	『精神保健福祉士国家試験過去問解説集2024』中央法規出版 問題演習を中心に展開する。適宜、講義及び対策プリントを配布する。				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	グループディスカッションでの参加態度、教員の問いかけに対する応答、精神保健福祉士模擬試験結果などを総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	40%	

履修上の留意事項	国家試験の取得は、専門職の前提です。自らの学習状況、習得状況を把握し、計画的に受験勉強に取り組んでください。また、「やりっぱなし」では力がつきませんでの、必ず自宅学習で復習し、1つ1つ確実な知識を身につけてください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	科目別知識の習得（田中）	精神疾患とその治療
	2	科目別知識の習得（高泉）	精神保健の課題と支援
	3	科目別知識の習得（田中）	精神保健福祉相談援助の基盤
	4	科目別知識の習得（田中）	精神保健福祉相談援助の基盤
	5	科目別知識の習得（田中）	精神保健福祉の理論と相談援助の展開
	6	科目別知識の習得（田中）	精神保健福祉の理論と相談援助の展開
	7	科目別知識の習得（田中）	精神保健福祉に関する制度とサービス
	8	科目別知識の習得（田中）	精神障害者の生活支援システム
	9	確認テスト（田中）	確認テスト
	10	確認テスト（田中）	確認テスト
	11	苦手科目の克服と知識の定着（高泉、田中）	苦手科目の対策
	12	科目別知識の習得（田中）	精神疾患とその治療
	13	科目別知識の習得（高泉）	精神保健の課題と支援
	14	科目別知識の習得（田中）	精神保健福祉相談援助の基盤
	15	科目別知識の習得（田中）	精神保健福祉相談援助の基盤

履修主題・履修内容	16	科目別知識の習得(田中)	精神保健福祉の理論と相談援助の展開
	17	科目別知識の習得(田中)	精神保健福祉の理論と相談援助の展開
	18	科目別知識の習得(田中)	精神保健福祉に関する制度とサービス
	19	科目別知識の習得(田中)	精神障害者の生活支援システム
	20	確認テスト(田中)	確認テスト
	21	確認テスト(田中)	確認テスト
	22	苦手科目の克服と知識の定着(高泉、田中)	苦手科目の対策
	23	科目別知識の習得(田中)	精神疾患とその治療
	24	科目別知識の習得(高泉)	精神保健の課題と支援
	25	科目別知識の習得(田中)	精神保健福祉相談援助の基盤
	26	科目別知識の習得(田中)	精神保健福祉相談援助の基盤
	27	科目別知識の習得(田中)	精神保健福祉の理論と相談援助の展開
	28	科目別知識の習得(田中)	精神保健福祉の理論と相談援助の展開
	29	科目別知識の習得(田中)	精神保健福祉に関する制度とサービス
	30	科目別知識の習得(田中)	精神障害者の生活支援システム
	31	確認テスト(田中)	確認テスト
	32	確認テスト(田中)	確認テスト
	33	苦手科目の克服と知識の定着(高泉、田中)	苦手科目の対策
	34	模擬試験の実施(高泉、田中)	全国模擬試験
	35	模擬試験の実施(高泉、田中)	全国模擬試験
	36	苦手科目の克服と知識の定着(高泉、田中)	苦手科目の対策
	37	苦手科目の克服と知識の定着(高泉、田中)	苦手科目の対策
	38	模擬試験の実施(高泉、田中)	学内模擬試験
	39	模擬試験の実施(高泉、田中)	学内模擬試験
	40	苦手科目の克服と知識の定着(高泉、田中)	苦手科目の対策
	41	苦手科目の克服と知識の定着(高泉、田中)	苦手科目の対策
	42	模擬試験の実施(高泉、田中)	学内模擬試験
	43	模擬試験の実施(高泉、田中)	学内模擬試験
	44	苦手科目の克服と知識の定着(高泉、田中)	苦手科目の対策
	45	苦手科目の克服と知識の定着(高泉、田中)	苦手科目の対策

授業科目 （科目ID）	国家試験対策Ⅲ	担当教員	髙泉　一生
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 社会福祉士として病院に勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員	
授業形態	講義	（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	国家試験対策Ⅳ	担当教員 （実務経験）	阿部　幸恵 有 ☑　無 ☐　看護師として病院に勤務		
対象年次・学期	4年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	15回	時間数	30時間
授業目的	介護福祉士国家試験にかかる科目のうち、特に重点的に学習を要する科目に関する知識の復習を通し、介護福祉士国家試験の合格を目指す。				
到達目標	自己分析しながら計画的に国家試験に向けた学習に取り組み、国家試験合格基準を満たすことができる。				
テキスト・ 参考図書等					

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	40%	・全国模擬試験、学力評価試験、科目別基礎知識の習熟度など総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	60%	

履修上の 留意事項	レジュメや資料の配布、問題演習などを行います。国家試験合格には学生自身の意欲、集中力が必要となりますので、欠席せず、積極的に授業に臨むことを期待します。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	科目別学習（吉岡）	社会の理解
	2	科目別学習（吉岡）	社会の理解
	3	科目別学習（髙橋）	介護の基本
	4	科目別学習（阿部）	介護の基本
	5	科目別学習（阿部）	発達と老化の理解
	6	科目別学習（髙橋）	認知症の理解
	7	科目別学習（泉）	障害の理解
	8	科目別学習（泉）	障害の理解
	9	科目別学習（喜田）	こころとからだのしくみ
	10	科目別学習（山谷）	生活支援技術（家政学）
	11	科目別学習（山谷）	生活支援技術（身体介護）
	12	科目別学習（髙橋）	介護過程
	13	科目別学習（阿部）	医療的ケア
	14	科目別学習（髙橋）	総合問題
	15	全体を振り返って（田中）	全体のまとめ

授業科目 （科目ID）	国家試験対策Ⅳ （19f416）	担当教員 （実務経験）	田中 航 有 ☑ 無 ☐ 精神保健福祉士として就労継続支援事業所に勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員 （実務経験）	喜田 俊恵 有 ☑ 無 ☐ 看護師として病院に勤務
授業形態	講義	担当教員 （実務経験）	吉岡 秀典 有 ☑ 無 ☐ 社会福祉士として病院に勤務
		担当教員 （実務経験）	泉 共基 有 ☑ 無 ☐ 看護師として病院に勤務
		担当教員 （実務経験）	髙橋 綾 有 ☑ 無 ☐ 介護福祉士としてケアハウスに勤務
		担当教員 （実務経験）	山谷 博美 有 ☑ 無 ☐ 介護福祉士として介護老人保健施設に従事
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目（科目ID）	卒業研究Ⅱ	担当教員（実務経験）	田中　航 有 ☑　無 ☐　精神保健福祉士として就労継続支援事業所に勤務		
対象年次・学期	4年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	30回	時間数	60時間
授業目的	本科目は、4年間の集大成として3年次から引き続き自身の関心あるテーマにつき探求し、まとめることを目的とする。また、その過程において、情報収集能力、説明力、分析力、思考力などを身につける。				
到達目標	自身の関心あるテーマで卒業研究をまとめ、発表することができる。				
テキスト・参考図書等					

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	・文献収集、文献の読み込み、計画的実施、成果物（規定事項の遵守、構成・論理性、考察）、プレゼンテーション（パワーポイント・抄録の出来栄え、発表、質疑応答）を総合的に評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	50%	
	その他	50%	

履修上の留意事項	全体指導と個別指導にて行う。本校に入学してから4年間、みなさんは福祉についてさまざまな角度から学んできました。その集大成として本研究に取り組むことで、福祉に対する理解を深め、福祉人としての自らのアイデンティティを再確認してほしいと思います。指導教員との連携も含め、自主的、主体的に行動して進めてください。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	個別指導（田中、吉岡）	論文の作成と個別指導
	2	個別指導（田中、吉岡）	論文の作成と個別指導
	3	個別指導（田中、吉岡）	論文の作成と個別指導
	4	個別指導（田中、吉岡）	論文の作成と個別指導
	5	個別指導（田中、吉岡）	論文の作成と個別指導
	6	個別指導（田中、吉岡）	論文の作成と個別指導
	7	個別指導（田中、吉岡）	論文の作成と個別指導
	8	個別指導（田中、吉岡）	論文の作成と個別指導
	9	個別指導（田中、吉岡）	論文の作成と個別指導
	10	中間報告（田中、吉岡）	中間報告と質疑応答
	11	中間報告の振り返り（田中、吉岡）	進捗状況の確認と今後の方向性
	12	個別指導（田中、吉岡）	論文の作成と個別指導
	13	個別指導（田中、吉岡）	論文の作成と個別指導
	14	個別指導（田中、吉岡）	論文の作成と個別指導
	15	個別指導（田中、吉岡）	論文の作成と個別指導

	16	個別指導（田中、吉岡）	論文の作成と個別指導
	17	個別指導（田中、吉岡）	論文の作成と個別指導
	18	個別指導（田中、吉岡）	論文の作成と個別指導
	19	個別指導（田中、吉岡）	論文の作成と個別指導
	20	個別指導（田中、吉岡）	論文の作成と個別指導
	21	個別指導（田中、吉岡）	論文の作成と個別指導
	22	抄録の作成（田中、吉岡）	抄録の作成
	23	抄録の作成（田中、吉岡）	抄録の作成
	24	発表資料の作成（田中、吉岡）	発表用資料、発表原稿の作成
	25	発表資料の作成（田中、吉岡）	発表用資料、発表原稿の作成
	26	発表資料の作成（田中、吉岡）	発表用資料、発表原稿の作成
	27	プレゼンテーションと発表準備（田中、吉岡）	発表及び質疑応答のプレゼンテーションについて
	28	プレゼンテーションと発表準備（田中、吉岡）	発表及び質疑応答のプレゼンテーションについて
	29	卒業研究発表会（田中、吉岡）	発表と質疑応答
	30	卒業研究発表会（田中、吉岡）	発表と質疑応答

授業科目 （科目ID）	卒業研究Ⅱ	担当教員	吉岡　秀典
		（実務経験）	有 ☑ 無 ☐ 社会福祉士として病院に勤務
対象年次・学期	4年・通年	担当教員	
授業形態	講義	（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員	
		（実務経験）	有 ☐ 無 ☐

2022年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）		担当教員 （実務経験）	有 ☑ 無 ☐		
対象年次・学期		必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数（1回90分）		時間数	
授業目的					
到達目標					
テキスト・ 参考図書等					

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	%	
	その他	%	

履修上の 留意事項	

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

2023年度　　専門学校北海道福祉・保育大学校　　社会福祉学科

授業科目 （科目ID）	キャリアデザインⅣ	担当教員 （実務経験）	田中　航 有 ☑　無 ☐　精神保健福祉士として就労継続支援事業所に勤務		
対象年次・学期	4年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	3単位
授業形態	講義	授業回数（1回90分）	23回	時間数	45時間
授業目的	本科目は、各人が自分自身の『こうありたい』という自己イメージを明確にし、その実現のためにどうすれば良いのかを考えるとともに、4年間を見据えた各学年における方向性を構想・実践することを目的としている。				
到達目標	①自らが希望する就職を実現できる。②計画的な学習でトリプル合格を目指すとともに受験等に必要な手続きを適切に行うことができる。				
テキスト・ 参考図書等					

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	%	・提出物の提出状況や内容により評価する。
	レポート	%	
	小テスト	%	
	提出物	100%	
	その他	%	

履修上の 留意事項	各人が自分自身というものを客観視でき、自分自身の将来についての方向性を持ち、その実現のための手掛かりを得ること。また有意義な学生生活を送ることができることを期待します。

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	1	目標設定	個人目標とクラス目標の検討・決定
	2	年間スケジュールの確認と行動計画	スケジュールを考慮した学習計画の立案
	3	就職に向けた準備①	就職セミナー
	4	就職に向けた準備②	就職セミナー
	5	就職に向けた準備③	就職セミナー
	6	就職に向けた準備④	求人票の見方、履歴書の作成、就職活動の理解
	7	就職に向けた準備⑤	提出書類、受験報告書・内定通知書の提出などの手続きの理解
	8	就職に向けた準備⑥	自己理解の促進
	9	資格取得に向けて①	介護福祉士国家試験への取り組み
	10	資格取得に向けて②	介護福祉士国家試験への取り組み
	11	資格取得に向けて③	介護福祉士国家試験への取り組み
	12	資格取得に向けて④	行動計画の確認、分析、修正
	13	資格取得に向けて⑤	介護福祉士国家試験受験申込
	14	資格取得に向けて⑥	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験申込
	15	資格取得に向けて⑦	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験への取り組み
	16	資格取得に向けて⑧	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験への取り組み
	17	資格取得に向けて⑨	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験への取り組み

履修主題・ 履修内容	18	資格取得に向けて⑩	行動計画の確認、分析、修正
	19	資格取得に向けて⑪	介護福祉士国家試験受験報告−自己採点と分析
	20	資格取得に向けて⑫	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験報告−自己採点
	21	振り返りと自己評価	4年間およびクラス目標の振り返り
	22	社会人になるにあたって	キャリアビジョンのデザイン
	23	社会人になるにあたって	“社会人”になるということ

授業科目 （科目ID）		担当教員 （実務経験）	有 ☑ 無 ☐
対象年次・学期		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
授業形態			
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐
		担当教員 （実務経験）	有 ☐ 無 ☐